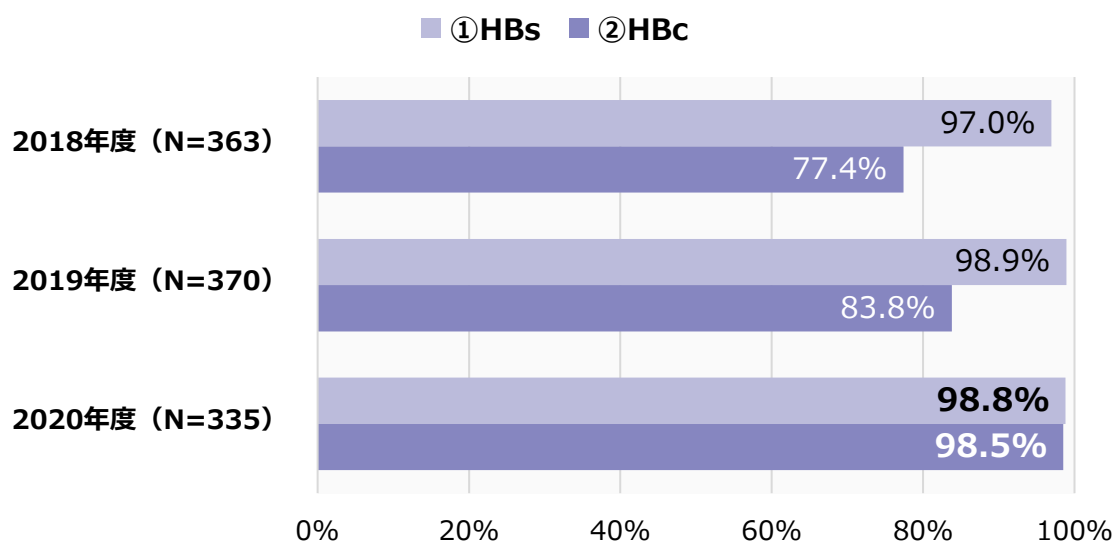


がん化学療法施行患者における、 HBVキャリアおよび既感染者のスクリーニング実施状況

HBV感染者において、免疫抑制・化学療法によりHBVが再増殖することをHBV再活性化と称します。通常の免疫抑制・化学療法をおこなう際は、主に非活動性キャリアを含めたHBs抗原陽性例からの再活性化が問題となりますが、HBV-DNA量が2.1copy/ml未満であった既往感染者に対するステロイド単剤や、固形癌に対する通常の化学療法でもHBV再活性化が生じたと報告されており、既往感染者でも注意が必要であるとされています。

このような背景から、免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドラインが発表され、HBV再活性化による劇症肝炎の予防が推奨されています。



当院値の定義・算出方法

分子： ①指定期間も含めて過去、当院において「HBs抗体検査」のオーダーがある患者
②指定期間も含めて過去、当院において「HBc抗原検査」のオーダーがある患者

×100 (%)

分母： 指定期間（月1）内の入院外来患者で、抗がん剤治療の処方オーダーがあり、過去当院において抗がん剤治療（レジメンオーダー適用）がおこなわれていない患者（初回治療の患者）

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

改善策について

化学療法開始時に薬剤部で両検査の実施状況把握し、検査漏れが判明した症例は即座に担当医に連絡、検査実施しています。化学療法開始初期には検査はほぼ100%達成出来ております。HBVDNA検査等を経て、HBVに対する予防治療が必要な患者さんは即座に肝臓内科専門医に紹介しています。更に、開始時検査率を高めるために、下記内容を改善策として施行しているHBc抗体検査率を向上させるために、がん治療センター委員会から定期的な注意喚起をおこないます。

文責：がん治療センター委員会
委員長 江見 泰徳